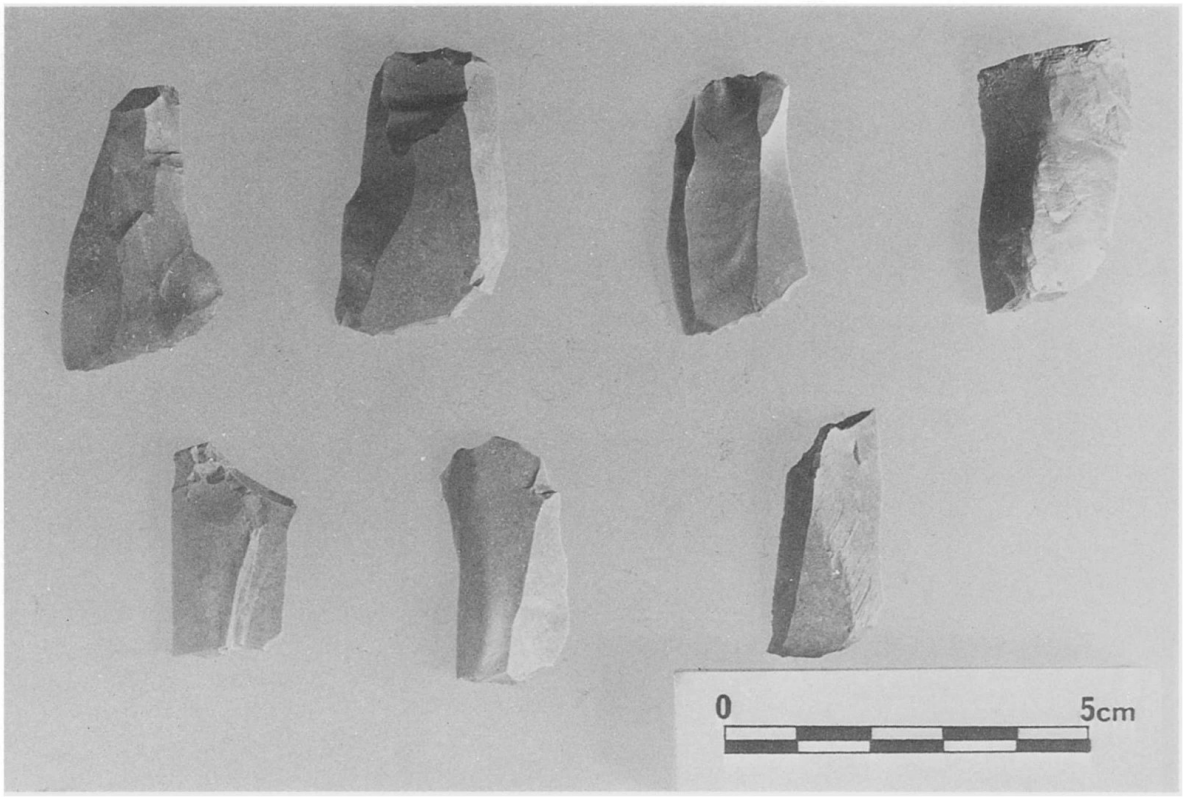
秋田県埋蔵文化財センター年報

7

昭和63年度

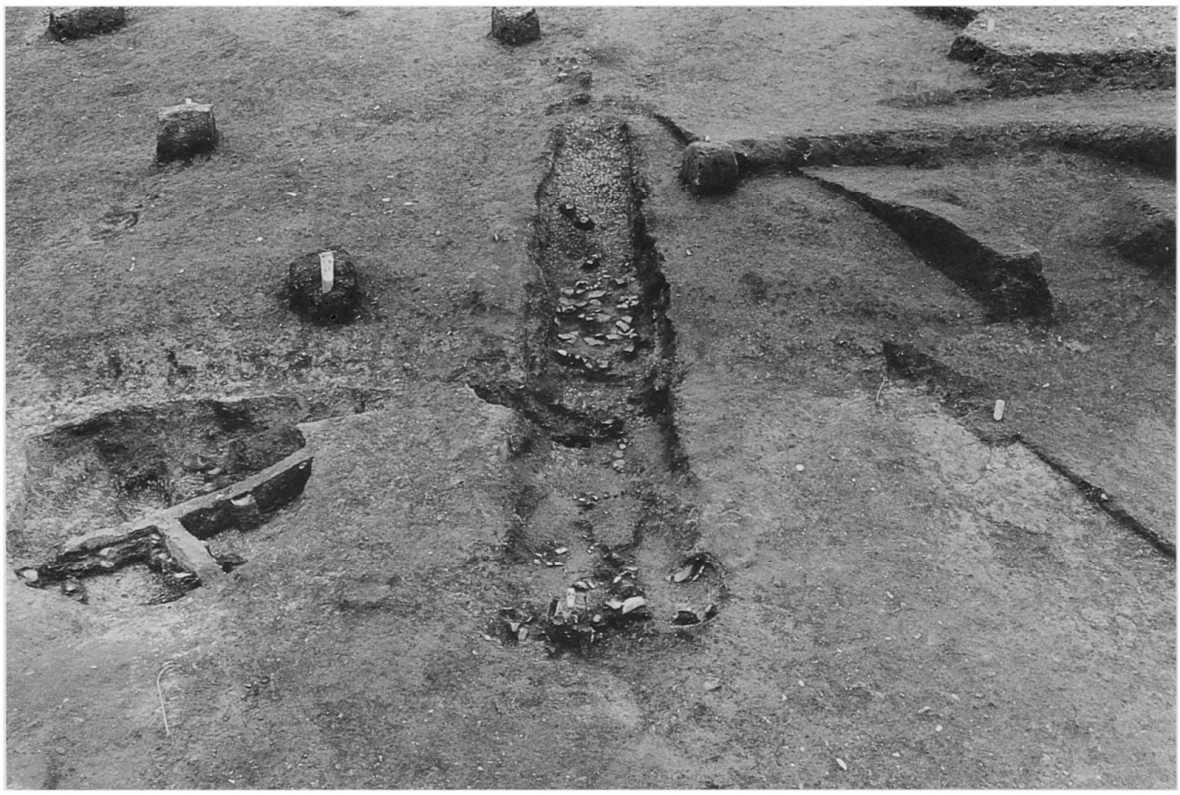
１９８９・３

秋田県埋蔵文化財センター

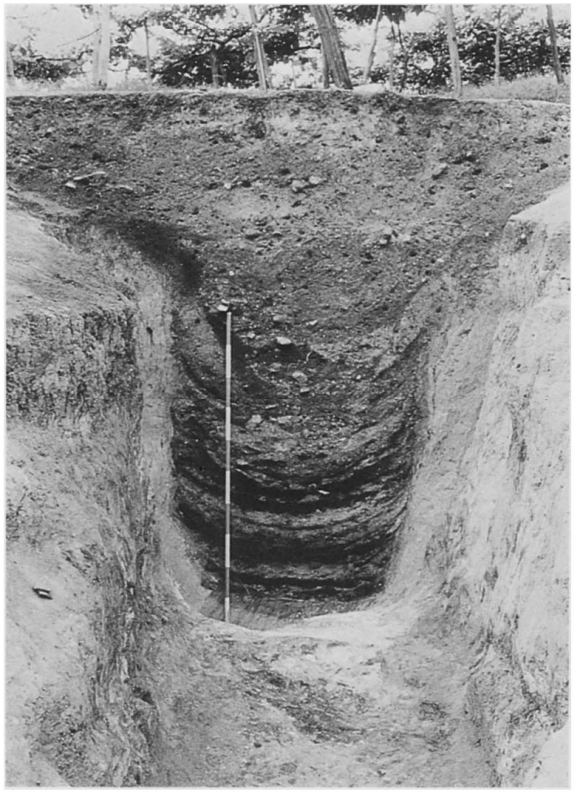


旧石器時代の台形石器

旧石器時代の尖頭器



SJ01須恵器窯(右)・SK02土器溜(左)



SJ05　須恵器窯断面の状況
窯断面には多くの炭化物層がみえる。

SJ17　灰原の遺物検出状況

序

埋蔵文化財は、先人が私達に残した大いなる文化遺産であり、古き郷土の歴史文化を伝え、現在の文化創造の基礎となっているものであります。私達もこの貴重な遺産から多くのことを学び、最良の文化を築き上げて、後世に伝えていくべきであります。

当埋蔵文化財センターでは、本年度も道路建設事業や土地改良事業等に係りやむ無く姿を消していく20遺跡、延べ105,443㎡に及ぶ面積の緊急発掘調査を実施しました。

この結果、県内では発掘調査例が少なく、その解明がまたれている旧石器時代の遺跡が、県北で1遺跡、県南で2遺跡発見できたのをはじめ、古代の秋田における須恵器の流通範囲を解明する上で、大きな手掛かりとなる須恵器窯跡の発見など、原始から中世に至る多くの重要な考古資料を得ることができました。

本年報は、これらの発掘調査概要と、今年度行った埋蔵文化財の保護普及活動を掲載したものであります。今後とも埋蔵文化財保護への御理解と、当埋蔵文化財センターに対する御協力を賜りますよう御願い申し上げます。

平成元年3月25日

秋田県埋蔵文化財センター
所　長　冨樫　公一郎

例　　言

1．本書は昭和63年度における秋田県埋蔵文化財センターの活動内容をまとめたものである。

2．発掘調査の概要は、調査担当が執筆した。

3．本書の編集は出版・展示担当が行った。

目　　次

序

例言、目次

1．昭和63年度埋蔵文化財発掘調査……3

（1）発掘調査遺跡一覧……3

（2）各遺跡の発掘調査の概要……5

2．研修会……15

3．埋蔵文化財保護普及……16

（1）現地説明会開催遺跡の概要……16

（2）昭和63年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会……17

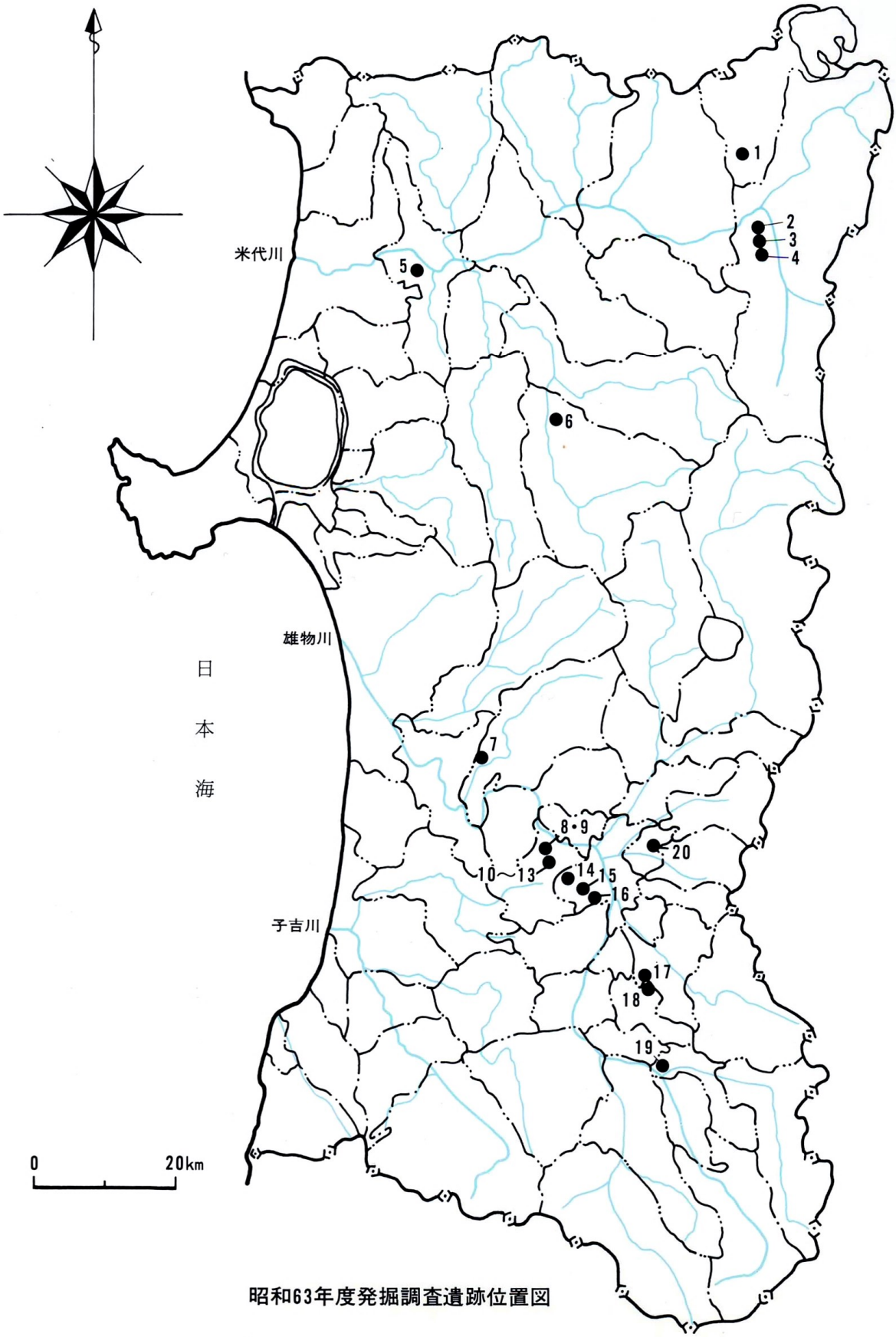
秋田県埋蔵文化財センター職員録……18

1．昭和63年度埋蔵文化財発掘調査

（1） 発掘調査遺跡一覧

番号	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積	時代	原因	調査主体者
1	はりま館遺跡	小坂町	5月9日～12月8日	34,280㎡	縄・弥・平	高速交通関連道路整備事業	秋田県教育委員会
2	太田谷地館跡	鹿角市	8月29日～11月12日	2,500㎡	縄・平	西山地区農免農道整備事業	秋田県教育委員会
3	高屋館跡	鹿角市	10月17日～12月3日	890㎡	平安以降	西山地区農免農道整備事業	秋田県教育委員会
4	用野目川向Ⅲ遺跡	鹿角市	8月29日～10月14日	1,200㎡	縄・平	西山地区農免農道整備事業	秋田県教育委員会
5	竜毛沢館跡	二ッ井町	5月6日～11月15日	12,000㎡	旧・縄・平・中	一般国道7号二ッ井バイパス建設事業	秋田県教育委員会
6	上袋Ⅰ遺跡	阿仁町	9月5日～11月7日	1,200㎡	縄	国道105号改良事業	秋田県教育委員会
7	上ノ山Ⅱ遺跡	協和町	5月9日～7月9日	1,250㎡	縄	東北横断自道車道秋田線建設事業	秋田県教育委員会
8	北田山田ヶ沢Ⅰ遺跡	南外村	10月1日～10月31日	300㎡	縄	東北横断自道車道秋田線建設事業	秋田県教育委員会
9	北田山田ヶ沢Ⅱ遺跡	南外村	10月1日～10月31日	500㎡	縄・中	東北横断自道車道秋田線建設事業	秋田県教育委員会
10	小出Ⅰ遺跡	南外村	5月9日～9月30日	6,900㎡	旧・縄・弥・平	東北横断自道車道秋田線建設事業	秋田県教育委員会
11	小出Ⅱ遺跡	南外村	5月9日～9月30日	2,300㎡	縄・平・中	東北横断自道車道秋田線建設事業	秋田県教育委員会
12	小出Ⅲ遺跡	南外村	5月9日～9月30日	4,200㎡	縄・中	東北横断自道車道秋田線建設事業	秋田県教育委員会
13	小出Ⅳ遺跡	南外村	5月9日～9月30日	2,700㎡	旧・縄・弥	東北横断自道車道秋田線建設事業	秋田県教育委員会
14	石神遺跡	大曲市	5月9日～8月5日	4,600㎡	縄	東北横断自道車道秋田線建設事業	秋田県教育委員会
15	太田遺跡	大曲市	5月9日～10月31日	8,500㎡	縄	東北横断自道車道秋田線建設事業	秋田県教育委員会
16	下田谷地遺跡	大曲市	5月9日～7月12日	3,600㎡	縄・平	東北横断自道車道秋田線建設事業	秋田県教育委員会
17	上猪岡遺跡	横手市	9月5日～12月6日	2,700㎡	縄・平	東北横断自道車道秋田線建設事業	秋田県教育委員会
18	竹原遺跡	平鹿町	5月9日～10月15日	9,200㎡	縄・奈・平	東北横断自道車道秋田線建設事業	秋田県教育委員会
19	八木遺跡	増田町	5月12日～8月9日	1,953㎡	縄	公害防除特別土地改良事業	秋田県教育委員会
20	払田柵跡	仙北町 千畑町	4月11日～12月3日	1,380㎡	奈・平	払田柵跡学術調査	秋田県教育委員会

※旧：旧石器時代　縄：縄文時代　弥：弥生時代　奈：奈良時代　平：平安時代　中：中世



昭和63年度発掘調査遺跡位置図

（２）各遺跡の発掘調査の概要

はりま館（だて）遺跡

所在地	鹿角郡小坂町小坂字下モ上ハ山47-1他	事業名	高速交通関連道路整備事業
調査期間	昭和63年５月９日～12月８日	事業関係機関	秋田県土木部道路課
調査面積	34,280㎡	調査担当者	大野憲司・栄　一郎・高橋　学・三嶋隆儀 近藤智弥・三浦光男・阿部崇志

調査の結果、はりま館遺跡の検出遺構は、縄文時代の竪穴住居跡30軒、土坑53基、土器埋設遺構８基、Ｔピット36基、焼土遺構15基、配石遺構４基、捨て場１箇所。弥生時代の竪穴住居跡２軒、土坑６基、焼土遺構６基、井戸跡１基。平安時代の竪穴住居跡28軒、土坑18基、鍛冶炉５基、柱列２列、焼土遺構６基、配石遺構１基、溝跡28条、畑畝跡１箇所。その他71遺構である。また、これに伴う各時代の土器、石器、鉄製品（平安時代のみ）が多量に出土している。

縄文時代の竪穴住居跡のうち28軒は、前期後葉のもので、大型住居跡（長軸約12.5ｍ、短軸約8.5ｍの楕円形）が１軒ある。この大型住居跡を含め、同期の竪穴住居跡数軒の周囲には、地山である段丘礫層を掘った際に出土した砂礫がドーナツ状に分布している。これは、竪穴住居跡を構築する際の盛土が周堤状に残ったものである。この他、特筆されるのは弥生時代の井戸跡、平安時代の焼失家屋（壁板材が炭化してよく残っている）や鍛冶炉がある。

太田谷地館（おおたやちたて）跡

所在地	鹿角市花輪字中畑27他	事業名	西山地区農免農道整備事業
調査期間	昭和63年８月29日～11月12日	事業関係機関	秋田県農政部鹿角農林事務所
調査面積	2,500㎡	調査担当者	柴田陽一郎・和泉昭一

遺跡は、高屋集落の西側台地上を約500ｍ登りきったところにあり、標高156ｍで比較的平坦な地である。遺跡地はもと山林、畑地、果樹園として利用されていた。

調査の結果、縄文時代の土坑４基、平安時代の竪穴住居跡５軒、空堀１条、土坑８基の計18遺構を検出した。縄文時代の土坑のうち３基は、径1.3～1.4ｍの円形で、深さ1.7ｍほどあり、底面には丸太杭を逆さに埋めたと思われる小さな穴があり、「陥し穴」と考えられる。平安時代の竪穴住居跡の規模は一辺3.8～5.1ｍが３軒、一辺2.4～3.6ｍが２軒あり、大湯浮石（十和田ａ火山灰とも呼ばれている。）が降下した後に作られたものである。竪穴住居跡５軒のうち、小さいほうの２軒は焼失家屋で、中から焼けた後に降り積もった火山灰を検出した。この火山灰は、朝鮮半島にある白頭山起源の苫小牧火山灰と推定される。したがって、焼失家屋は大湯浮石より新しく、苫小牧火山灰より古い竪穴住居跡とすることができる。

高屋館跡

所在地	鹿角市花輪字館ヶ沢45	事業名	西山地区農免農道整備事業
調査期間	昭和63年10月17日～12月３日	事業関係機関	秋田県農政部鹿角農林事務所
調査面積	890㎡	調査担当者	小畑　巌・磯村　亨

遺跡は、花輪盆地の西端を北流する米代川とその支流花軒田川に挟まれて、北方向に張り出した台地北端部に立地している。

高屋館跡は、「鹿角由来記」にある鹿角四十二館の一つに数えられており、本丸と伝承される第Ⅰ郭から第Ⅳ郭までの４つの郭によって構成される多郭連続式の館跡である。今回の調査は、４つの郭のうち西山地区農免道が通る第Ⅳ郭の一部3.750㎡を対象として、今年度はその取り付け道路部分890㎡の調査を行った。

調査の結果、土坑２基、溝状遺構２条の計４遺構を検出した。しかし、いずれの遺構からも遺物が出土しなかったため、その時期は不明である。検出した土坑のうち１基は、調査区外にかかっており、全容を把握できなかったが、もう１基は長軸1.5ｍ、短軸0.7ｍの楕円形を呈し、確認面からの深さ４～６㎝である。溝状遺構は長さ34ｍ、幅0.3～0.6ｍ、深さ0.1ｍのものと長さ8.5ｍ、幅0.8～1.0ｍ、深さ0.2～0.3ｍのもので、城館の空堀を想起させるものではなかった。

用野目川向Ⅲ遺跡

所在地	鹿角市花輪字用野目川向115-3･116-6	事業名	西山地区農免農道整備事業
調査期間	昭和63年８月29日～10月14日	事業関係機関	秋田県農政部鹿角農林事務所
調査面積	1,200㎡	調査担当者	小畑　巌・磯村　亨

遺跡は、花輪盆地の西端を北流する米代川左岸に形成された、標高200ｍ前後のやや起伏を持つ丘陵東端に立地している。

調査の結果、縄文時代の竪穴遺構１基、平安時代の竪穴住居跡４軒、土坑16基を検出した。縄文時代の竪穴遺構は、長軸2.9ｍ、短軸2.5ｍの楕円形を呈し、二段の階段状に掘り込まれている。底部のほぼ中央にピットを有しており、さらに壁外の対角線上にも計４つのピットを持っていた。覆土中からは焼土と縄文晩期の土器が出土している。また、平安時代の16基の土坑のうち、８基の土坑の覆土から、大湯浮石に特有の軽石粒が検出されたことから、平安時代のものと考えられる。

竜毛沢館跡

所在地	山本郡二ッ井町切石字竜毛沢164他	事業名	一般国道7号二ッ井バイパス建設事業
調査期間	昭和63年5月6日～11月15日	事業関係機関	建設省東北建設局能代工事事務所
調査面積	12,000㎡	調査担当者	桜田　隆

遺跡は、米代川左岸の比高35ｍの河岸段丘縁辺が侵食されてできた舌状台地を、柵列・空掘で区画し、３郭から構成される中世城館である。

調査の結果、掘立柱建物跡・竪穴住居跡・便所跡・焼土遺構・土坑・空堀・柵列・土橋等の遺構群と、須恵器系中世陶器・青磁・白磁・炭化籾・炭化そばの実・炭化豆等の遺物類からなる中世城館遺構が主体をなすが、平安時代の製鉄炉・炭焼窯、縄文時代の竪穴住居跡群・土器埋設遺構・土坑・フラスコ状土坑・Ｔ－Ｐｉｔ・配石遺構等の遺構、深鉢形・壺形の土器、土偶・土製品・石器類等の遺物、旧石器時代の遺物も出土している。

青磁碗は、竜泉窯系の蓮弁文碗であり、13Ｃ～14Ｃ半ばの年代が与えられることから、ほぼその時期に館が営まれたと思われる。

なお、館跡下方に近世の羽州街道がはしっており、米代川水運と陸路の要衝としての位置を占めることから、館の性格を考える上で重要である。

上岱Ⅰ遺跡

所在地	北秋田郡阿仁町水無字上岱136-1他	事業名	国道105号改良工事
調査期間	昭和63年9月5日～11月7日	事業関係機関	秋田県土木部北秋田土木事務所
調査面積	1,200㎡	調査担当者	児玉　準

遺跡は、阿仁川によって形成された標高120ｍほどの河岸段丘上に立地する。

調査の結果、縄文時代中期中葉から末葉にかけての竪穴住居跡19軒、土坑21基の計40遺構が、密集、重複する状態で検出された。土坑は長軸２ｍを越す大型のものが多く、底面に壁溝を設け、中央部に柱穴を有し、段丘縁辺部に列状に配列されていることから、大部分は屋外の貯蔵穴としての機能が推定される。これらの大型土坑は、縄文時代前期が主体と考えられる。

しかし、竪穴住居跡には前期のものはないので、前期に属する竪穴住居跡は調査区の東側から北東側に存在していると推定される。

また、出土した土器や半円状扁平打製石器、複式炉などからは、本遺跡が米代川水系に属しながらもその南部に位置することから、円筒土器文化圏、大木式土器文化圏の両要素を受け入れていることがうかがわれる。

上ノ山Ⅱ遺跡

所在地	仙北郡協和町中淀川字千着上ノ山2-1他	事業名	東北横断自動車道秋田線建設事業
調査期間	昭和63年5月9日～7月9日	事業関係機関	日本道路公団仙台建設局秋田工事事務所
調査面積	1,250㎡	調査担当者	山崎文幸・能登谷宣康

上ノ山Ⅱ遺跡発掘調査の結果、縄文時代前期に属する78遺構を検出した。その内訳は、竪穴住居跡12軒（内大型住居跡10軒）、土坑43基、フラスコ状土坑19基、土器埋設遺構1基、配石遺構1基、焼土遺構1基、溝状遺構1条である。この中で注目したいのはＳＩ171とした大型住居跡で、長軸30.2ｍ、短軸8.3ｍ、床面積219㎡を計り、現在国内最大規模の大型住居跡である能代市杉沢台遺跡ＳＩ07の長軸31ｍ、短軸8.8ｍ、床面積222㎡に次ぐものである。またＳＩ171には付属施設として壁際にフラスコ状土坑が伴っており、大型住居跡の性格・機能を解明するうえでも重要である。

出土遺物としては、土器が縄文時代前期の円筒下層ｂ式・大木4式の深鉢形土器を主体とし、石器が半円状扁平打製石器の150点を筆頭に石鏃・石匙・石ベラ・石錐・石槍・有撮尖頭器・凹石・石皿・石錘・石剣・石棒・玦状耳飾り・燕尾形石製品など約1,000点出土した。

北田山田ヶ沢Ⅰ遺跡

所在地	仙北郡南外村字北田山田ヶ沢87･159	事業名	東北横断自動車道秋田線建設事業
調査期間	昭和63年10月1日～10月31日	事業関係機関	日本道路公団仙台建設局秋田工事事務所
調査面積	300㎡	調査担当者	栗沢光男・高橋正洋

遺跡は、雄物川の支流楢岡川の左岸に形成された、標高24ｍほどの河岸段丘上に立地している。

調査の結果、土坑11基が検出され、縄文時代の土器と石鏃、石ベラ、スクレイパー、凹石等の石器が出土した。検出された土坑は、平面プランがほぼ円形を呈しているものが多く、ＳＫ09とした土坑には、土器が正位に埋設されていた。これらの土坑は、遺構内外の出土遺物から縄文時代晩期のものと考えられる。性格については、それを決定できる要素を欠いており明確にはできないが、ＳＫ09他の土坑の出土遺物のあり方から、埋葬用として構築されたものと思われる。

以上、本遺跡は縄文時代晩期の墓域跡と推察される。また、遺跡の範囲は、検出遺構と出土遺物の分布状況や遺跡地形から、本調査区外の南西側へ広がるものと予測される。

北田山田ヶ沢Ⅱ遺跡

所在地	仙北郡南外村字北田山田ヶ沢268	事業名	東北横断自動車道秋田線建設事業
調査期間	昭和63年10月1日～10月31日	事業関係機関	日本道路公団仙台建設局秋田工事事務所
調査面積	500㎡	調査担当者	高橋忠彦・鎌田　茂

遺跡は、北田山田ヶ沢Ⅰ遺跡の北西約1㎞の出羽山地の末端部、標高30～33ｍの斜面に立地している。

調査の結果、遺構は検出されなかったが、調査区内西側では縄文時代の中・後期の土器、石器、東側では中世の珠洲系陶器が出土した。

縄文時代の土器は、深鉢形土器が主体で、縄文や撚糸文を地文として沈線によって、曲線的な文様を描いたものがある。石器には打製石斧、石ベラ、石匙、磨製石斧などがある。また、中世の珠洲系陶器は大型の壺で、ほぼ一個体分まとまって出土しており、外反する口縁、短い頸部、球形に近い胴部をもつもので、器面に粗いタタキ目がある。おそらくは大畑窯で生産されたもので13Ｃに位置づけられる。遺物の出土状況から、調査区外西側には縄文時代の集落が、また、東側には中世の墳墓の存在する可能性が強い。

小出Ⅰ遺跡

所在地	仙北郡南外村字小出443他	事業名	東北横断自動車道秋田線建設事業
調査期間	昭和63年5月9日～9月30日	事業関係機関	日本道路公団仙台建設局秋田工事事務所
調査面積	6,900㎡	調査担当者	高橋忠彦・鎌田　茂

遺跡は雄物川の支流楢岡川の右岸に形成された標高60ｍ前後の段丘で、北西側に張り出した舌状部分に立地している。

調査の結果、旧石器時代の石器集中地点が4箇所、縄文時代中期後半の竪穴住居跡1軒、土坑9基、平安時代の土器埋設遺構5基など計38遺構が検出されている。遺物は4,754点の旧石器、縄文時代早期後半～弥生時代の土器、石器、平安時代の須恵器、土師器、中世の珠洲系陶器が出土している。この中で旧石器には、台形石器とナイフ形石器を中心とする一群と、尖頭器を中心とする一群とがあり、両者間には1万年前後の時間差がある。また、土器埋設遺構は、火葬骨を蔵骨器に入れて埋納しており、10Ｃ初頭に位置づけられる。

遺跡は、旧石器時代から中世にかけて連続して営まれたもので、旧石器の編年や平安時代の葬制を解明する上で極めて重要な遺跡である。

小出（こいで）Ⅱ遺跡

所在地	仙北郡南外村字小出455他	事業名	東北横断自動車道秋田線建設事業
調査期間	昭和63年5月9日～9月30日	事業関係機関	日本道路公団仙台建設局秋田工事事務所
調査面積	2,300㎡	調査担当者	高橋忠彦・鎌田　茂

遺跡は、小出Ⅰ遺跡の北側に面した斜面に立地しており、昨年度調査した平担部の南側斜面を調査した。

調査の結果、平安時代の竪穴住居跡1軒と、それに伴う柱列と階段状遺構が検出されており、遺物では、縄文時代前・中期の土器、石器、平安時代の土師器、須恵器、中世の珠洲系陶器などが出土している。

竪穴住居跡は斜面の低地に造られており、南壁中央にカマドを有している。竪穴住居跡の北東からは柱列が等高線にほぼ平行して東西に延びており、その北東部末端で斜面を登る階段状遺構に連結している。竪穴住居跡は10C初頭の時期であり、小出Ⅰ遺跡の土器埋設遺構と同時期である。また、他の遺物も同様で両遺跡は極めて関連性が強いものと言える。

小出（こいで）Ⅲ遺跡

所在地	仙北郡南外村字小出460－1他	事業名	東北横断自動車道秋田線建設事業
調査期間	昭和63年5月9日～9月30日	事業関係機関	日本道路公団仙台建設局秋田工事事務所
調査面積	4,200㎡	調査担当者	栗沢光男・高橋正洋

遺跡は、雄物川の支流楢岡川の右岸に形成された、標高40～45m前後の河岸段丘上に立地している。調査区は地形上、南からA区・B区・C区・D区の4地点に分かれる。A区は南西へ僅かに突出する舌状台地の先端部、B区はA区とC区を隔てる沢地、D区は西向きの小規模な舌状台地にあるC区北側から連続する、北西向きの緩斜面上に立地している。

小出Ⅲ遺跡の発掘調査は昭和62年度からの継続調査で、C区は昨年度調査を終了しており、本年度はC区の南側のA・B区と北側のD区を調査した。その結果、A・B・D区は、畑地や植林などの土地造成のため、ほぼ全域にわたって攪乱を受けており、三区とも遺構は検出されなかった。また、出土した縄文時代の土器、石器と中世珠洲系陶器などの遺物もほとんど攪乱層からの出土である。したがって、今回の調査では遺跡の性格を十分に把握することができなかったが、出土遺物から遺跡は、縄文時代中期・後期と中世の複合遺跡であることが判明した。

小出（こいで）Ⅳ遺跡

所在地	仙北郡南外村字小出468－1他	事業名	東北横断自動車道秋田線建設事業
調査期間	昭和63年5月9日～9月30日	事業関係機関	日本道路公団仙台建設局秋田工事事務所
調査面積	2,700㎡	調査担当者	栗沢光男・高橋正洋

遺跡は雄物川の支流楢岡川の右岸に位置し、ほぼ北へ張り出して舌状地形を成す段丘の先端部付近に立地している。遺跡の標高は32m前後である。

調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡1軒、土坑5基、土器埋設遺構1基と弥生時代の竪穴住居跡1軒の計8遺構と、旧石器時代の石器、縄文時代の土器と石器、弥生時代の土器等の遺物を検出した。中でも注目されるのは、旧石器時代の石器で、ナイフ型石器と掻器などの石器と石核、剝片、砕片など計320点が出土した。石器は大型の縦長剝片を素材として作られている。その石質は頁岩が主体であるが、黒曜石の剝片なども数点出土している。

以上、本遺跡は旧石器時代から弥生時代にわたり、人々の生活の場として利用されていたことが判明した。また、今回の調査で旧石器時代の石器を検出できたことは、県内の旧石器時代を解明する上において貴重なデーターを得たと言える。

石神（いしがみ）遺跡

所在地	大曲市内小友字石神98－2他	事業名	東北横断自動車道秋田線建設事業
調査期間	昭和63年5月9日～8月5日	事業関係機関	日本道路公団仙台建設局横手工事事務所
調査面積	4,600㎡	調査担当者	船木義勝・小畑　巌・磯村　亨

遺跡は、南外村と大曲市の境界付近を流れる小出川を西に臨む台地上に立地しいている。この台地は、水田上に半島状に突き出ており、標高80m前後、水田との比高差が約25mある。

調査区はほぼ南北に長く、それを横切るように馬の背状の尾根が入っている。この尾根から北側は、山林で人の手があまり加えられていない。南側は、戦後開墾が行われ、斜面にも段々畑がつくられている。開墾とその後の耕作は地山まで及んでおり、遺構、遺物の遺存状態は良くなかった。

調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡1軒、土坑2基、T－Pit 6基の他、土坑4基、空堀1条、溝状遺構1条、炭焼窯2基の計17遺構を検出した。出土遺物は、縄文時代後期の土器とフレーク、砥石などが少量である。

太（おお）田（た）遺跡

所在地	大曲市内小友字浅川53－1他	事業名	東北横断自動車道秋田線建設事業
調査期間	昭和63年5月9日～10月31日	事業関係機関	日本道路公団仙台建設局横手工事事務所
調査面積	8,500㎡	調査担当者	谷地　薫・小山内　透

遺跡は、雄物川の支流小友川右岸の標高約38～45ｍの丘陵上に立地している。

調査の結果、縄文時代中期の住居跡14軒等が検出された。住居跡の種類は、複式炉をもつ円形の竪穴住居跡が3軒、土器片囲い炉をもつ竪穴住居跡1軒、竪穴式ではなく地床炉を8本の柱穴が楕円形に囲む住居跡が5軒、その他5軒である。いずれからも大木10式期の土器が出土した。

複式炉をもつ円形の竪穴住居跡は丘陵の西縁に並び、丘陵上の平担部には地床炉を8本の柱穴が楕円形に囲む住居跡が主軸を北東に向けて並ぶ。唯一の土器片囲い炉をもつ竪穴住居跡は、これらとはやや離れて丘陵の北東斜面にあった。

土器片囲い炉は、土器を5～10枚重ねて立てて馬蹄形に囲んだ炉である。炉に使用された土器には、大木10式土器の文様モチーフの中に、北陸地方の大杉谷式に類似する葉脈状文が充填されている。

下田谷地（しもだやち）遺跡

所在地	大曲市内小友字下田谷地130他	事業名	東北横断自動車道秋田線建設事業
調査期間	昭和63年5月9日～7月12日	事業関係機関	日本道路公団仙台建設局横手工事事務所
調査面積	3,600㎡	調査担当者	柴田陽一郎・和泉昭一

遺跡は、北西と南西の沢によって区切られ、標高約40ｍの馬の背状となった丘陵上に立地している。

調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡2軒、土坑33基、フラスコ状土坑1基、平安時代の土坑2基など計38遺構を検出した。うちフラスコ状土坑以外の遺構は、南側丘陵上の南斜面に集中している。竪穴住居跡は、周辺の遺物出土状況から縄文時代後期～晩期と考えられ、土坑は縄文時代晩期に属するものが多いが、ＳＫ08とした土坑のように底面と周囲にピットをもつものもある。平安時代の土坑には、2基とも火山灰が埋土にレンズ状に堆積していた。また、南側丘陵南端の沢でも火山灰が薄いながらも層を成していることが確認されているが、土坑内のものと同じ火山灰の可能性がある。火山灰の下には砂利層があり、この層から石器の原料となりそうな礫が多く採集され、さらに砂利層の下には縄文時代の泥炭層が堆積していた。

上猪岡遺跡

所在地	横手市猪岡字猪岡245他	事業名	東北横断自動車道秋田線建設事業
調査期間	昭和63年9月5日～12月6日	事業関係機関	日本道路公団仙台建設局横手工事事務所
調査面積	2,700㎡	調査担当者	武藤祐浩・吉田　真

遺跡は、横手盆地の南西部にのびる中山丘陵の北西に位置し、標高54ｍの狭い平担部と、それに続く緩やかな斜面に立地している。

調査の結果、縄文時代、平安時代の遺構とそれに伴う遺物を検出した。縄文時代の遺構は、竪穴住居跡２軒、土坑53基、土器埋設遺構２基、溝状遺構４条、焼土遺構１基、その他３の計65遺構である。遺物は、中期～晩期の土器、石器などが出土した。これらの遺物は主として晩期の大洞ＢＣ式期のものが多く、検出された遺構の大半もこの時期に構築されたものと考えられる。平安時代の遺構は、竪穴状遺構４基、土坑９基、焼土遺構１基、窯跡１基、その他２の計17遺構である。遺物は、土師器、須恵器、砥石などが出土した。

また、平安時代の土坑９基のうち配石を伴う土坑が１基あり、この土坑からは模様の描かれた土師器甕の胴部片が出土した。

竹原遺跡

所在地	平鹿郡平鹿町上吉田間内字竹原118~121	事業名	東北横断自動車道秋田線建設事業
調査期間	昭和63年5月9日～10月15日	事業関係機関	日本道路公団仙台建設局横手工事事務所
調査面積	9,200㎡	調査担当者	利部　修・藤原　司

遺跡は、ＪＲ横手駅から西へ直線で3.5㎞の距離に位置し、横手盆地の南側にある中山丘陵の北西斜面に立地している。

調査の結果、奈良・平安時代の窯跡４基、灰原10箇所、竪穴住居跡１軒、土器溜１基、土坑７基、溝２条、時期不明の窯状遺構３基、土坑４基、溝２条、集石１基、その他性格は不明であるが奈良・平安時代のもので、斜面を利用した遺構３基を検出した。遺物は、須恵器がコンテナで100箱、土師器が１箱、少量の縄文時代の土器・石器が出土した。

検出した窯跡は、地下式構造が２基、半地下式構造が２基で、前者の１基からは10枚の炭化物層が確認され、後者の１基からは窯壁に工具の痕跡が明瞭に認められた。また、土器溜の遺物を覆って、10Ｃ前半と考えられている灰白色火山灰が検出された。

本遺跡は須恵器の窯業遺跡として特色づけられ、操業年代は８Ｃ～９Ｃである。

八木遺跡

所在地	平鹿郡増田町増田字仁井田堰向94他	事業名	公害防除特別土地改良事業
調査期間	昭和63年5月12日～8月9日	事業関係機関	秋田県農政部平鹿農林事務所
調査面積	1,953㎡	調査担当者	武藤祐浩・小林　克・吉田　真・久米　徹

遺跡は、増田扇状地の南西側、皆瀬川の河岸段丘上に立地している。

八木遺跡は、昭和57年に行われた範囲確認調査によって約46,000㎡の面積を有する遺跡であることが知られていたが、今回の調査は、土地改良事業に伴う用水路掘削部分、削土箇所を対象とした。

調査の結果、縄文時代後期初頭～中葉を中心とする時期の土壙510基、竪穴住居跡5軒等を検出した。土壙の中には内部に人頭大の礫を詰め込んだもの、壙上面に組石を伴うものなどがあり、かつ骨片を確認した例も多く含まれている。また近年、縄文時代墓域跡で特徴的に認められている大型の柱穴列も数基確認されており、大規模な墓域跡と判断される遺跡である。しかし、出土遺物も極めて大量であり、土器類はコンテナ800箱ほどにのぼる。土器以外では土偶、耳飾等の土製品もまとまった数量が出土しているが、他に700点以上の石鏃、600点以上の石錘、50点以上の石皿や砥石など、石器類の豊富さにも目をみはるものがある遺跡である。

払田柵跡

所在地	仙北町払田・千畑町本堂城回	事業名	払田柵跡学術調査
調査期間	昭和63年4月11日～12月3日	事業関係機関	秋田県教育庁払田柵跡調査事務所
調査面積	1,380㎡	調査担当者	児玉　準

本年度の調査は、第74～77次にわたる調査と第65次補足調査を行った。第74次調査では、石塁自体は残存しなかったが、西側石塁内側の柱列と同様の、遺構や内郭線基礎地業を検出でき、それによって東側石塁の位置をほぼ特定することができた。第75次調査では、当初の目的とした板塀状遺構は調査区内には延びていないことが判明し、竪穴住居跡や柱列、溝状遺構などを検出することができた。第76次調査は第69次調査の継続調査で、政庁から長森丘陵東端までの微地形測量と基準点の埋設を行った。第77次調査は外郭西部から北西部にかけての125,000㎡を対象にハンド・ボーリングによる地山レベルの計測、遺物の表面採集などの記録作成を中心に行った。調査の結果、地山地形の様相を把握することができたが、遺物は得られなかった。他に第65次調査の補足調査として、西側石塁の環境整備事業に伴う記録作成を行った。これまで不確定であった石塁の幅を明確にすることができた。

2．研修会

当センターでは、市町村文化財関係職員を対象として、今年度も埋蔵文化財に関する研修会を実施した。本年度は、昭和61年度から実際の埋蔵文化財発掘調査への理解を深めて貰うために行ってきた研修の最終年度で、その締め括りとして遺物の実測と報告書作成についての研修を行った。その概要は以下のとおりである。

昭和63年度秋田県埋蔵文化財研修会

Ⅰ）期　日

昭和63年９月16日（金）・９月17日（土）

Ⅱ）会　場

秋田県埋蔵文化財センター第１研修室・第２整理室

Ⅲ）参加者

市町村文化財関係職員

Ⅳ）内　容

①研修テーマ

『遺物の実測と報告書の作成』

②研修内容

第１日目　９月16日（金）

ａ．報告書の作成について

（報告書の記載事項と体裁・報告書作成の実務）

ｂ．遺物の実測、採拓、トレースについて

（石器と土器の実測方法・採拓とトレースの方法）

ｃ．遺物実測、採拓、トレース実習

（土器実測、採拓、トレース実習）

第２日目　９月17日（土）

ａ．講　演

演　題　　『発掘調査の意義と報告書の活用方法』

講　師　　國学院大学教授　小林達雄

ｂ．質問・自由討議

3．埋蔵文化財保護普及

昭和63年度は、一般国道７号二ツ井バイパス建設事業に係る竜毛沢館跡、東北横断自動車道秋田線建設事業に係る竹原遺跡と小出Ⅰ～Ⅳ遺跡、鹿角市の西山地区農免農道整備事業に係る太田谷地館跡と用野目川向Ⅲ遺跡、小坂町の高速交通関連道路整備事業に係るはりま館遺跡の現地説明会と、秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会を実施した。いずれも発掘調査の成果を一般県民に公表して、埋蔵文化財保護普及に資することを目的としている。

（１）現地説明会開催遺跡の概要

竜毛沢館跡現地説明会

Ⅰ）　期　日　昭和63年10月15日（土）午後２時～３時30分

Ⅱ）　主　催　秋田県埋蔵文化財センター

Ⅲ）　会　場　竜毛沢館跡発掘調査現場

Ⅳ）　対　象　一般県民

竹原遺跡現地説明会

Ⅰ）　期　日　昭和63年10月15日（土）午後２時～３時

Ⅱ）　主　催　秋田県埋蔵文化財センター

Ⅲ）　会　場　竹原遺跡発掘調査現場

Ⅳ）　対　象　一般県民

小出Ⅰ～Ⅳ遺跡現地説明会

Ⅰ）　期　日　昭和63年10月29日（土）午後１時～２時

Ⅱ）　主　催　秋田県埋蔵文化財センター

Ⅲ）　会　場　南外村南小学区コミュニティセンター

Ⅳ）　対　象　一般県民

太田谷地館跡・用野目川向Ⅲ遺跡現地説明会

Ⅰ）　期　日　昭和63年11月26日（土）午後２時～４時

Ⅱ）　主　催　秋田県埋蔵文化財センター

Ⅲ）　会　場　鹿角市・久保田自治会館

Ⅳ）　対　象　一般県民

はりま館遺跡現地説明会

Ⅰ）　期　日　昭和63年12月３日（土）午後１時～４時

Ⅱ）　主　催　秋田県埋蔵文化財センター

Ⅲ）　会　場　小坂町公民館

Ⅳ）　対　象　一般県民

前掲遺跡のうち、直接発掘現場で説明会を行ったのは竜毛沢館跡と竹原遺跡で、他は諸般の事情で地元の会館等の施設を借りて説明会を行った。

竜毛沢館跡と竹原遺跡では、検出遺構等の発掘調査をほぼ終了した段階で、その成果を県民に公表した。当日は、両遺跡ともあいにく小雨まじりの天気となったが、それにもかかわらず地元や近隣市町村から多くの方々が訪れ、調査担当者の説明に熱心に耳を傾けていた。

また、発掘調査の全行程を終了してから屋内で説明会を行った、小出Ⅰ～Ⅳ遺跡、太田谷地館跡、用野目川向Ⅲ遺跡、はりま館遺跡では、遺跡を映像記録したスライドなどを使用して遺跡の説明を行うとともに、主な出土遺物を会場に展示して調査の成果を公表した。

（２）昭和63年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会

Ⅰ）　期　日　　平成元年３月５日（日）午前10時～午後15時10分

Ⅱ）　主　催　　秋田県埋蔵文化財センター

Ⅲ）　会　場　　大曲仙北広域交流センター１階講堂

Ⅳ）　対　象　　一般県民

Ⅴ）　報告遺跡

小出遺跡……高橋忠彦

はりま館遺跡……大野憲司

太田遺跡……谷地　薫

八木遺跡……小林　克

竹原遺跡……利部　修

払田柵跡……児玉　準

竜毛沢館跡……桜田　隆

９回目の本報告会にも多くの県民が参会し、発掘調査報告や会場に展示した出土遺物について、職員にいろいろと質問が出されるなど、県民の埋蔵文化財に対する関心度が高いことを示してくれた報告会であった。

秋田県埋蔵文化財センター職員録

（平成元年３月現在）

所　　長	冨　樫　公一郎
副 所 長	岩　見　誠　夫
主　　査	加　藤　　進
主　　事	高　橋　忠太郎
学芸主事	船　木　義　勝
学芸主事	大　野　憲　司
学芸主事	栄　　一　郎
学芸主事	利　部　　修
学芸主事	小　畑　　巌
学芸主事	高　橋　　学
学芸主事	谷　地　　薫
学芸主事	武　藤　祐　浩
文化財主任	桜　田　　隆
文化財主事	柴　田　陽一郎
文化財主事	児　玉　　準
文化財主事	高　橋　忠　彦
文化財主事	小　林　　克
文化財主事	栗　沢　光　男
文化財主事	山　崎　文　幸
非常勤職員	高　橋　中　二
非常勤職員	三　嶋　隆　儀
非常勤職員	小山内　　透
非常勤職員	和　泉　昭　一
非常勤職員	鎌　田　　茂
非常勤職員	能登谷　宣　康
非常勤職員	藤　原　　司
非常勤職員	近　藤　智　弥
非常勤職員	三　浦　光　男
非常勤職員	久　米　　徹
非常勤職員	吉　田　　真
非常勤職員	高　橋　正　洋
非常勤職員	磯　村　　亨
非常勤職員	阿　部　崇　志

秋田県埋蔵文化財センター年報７

（昭和63年度）

発　　行　　平成元年３月

秋田県埋蔵文化財センター

秋田県仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地

電 話 0187－69－3331

印　　刷　　合資会社　精 巧 堂 印 刷 所